紀伊民報

2007年(平成19年)9月28日 金曜日 第19478号 (4)

「きれいな自然見たい」

大学生がフィールド調査

川座川沿岸
古串本

京都大学と北海道大学の学生19人は21～27日、森里海連環学実習「紀伊半島の森と里と海」の一環で、古座川町と串本町を訪れ、古座川流域から串本湾岸域でフィールド調査や聞き取り調査をした。

この実習は5年前から行っており、京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所（串本町）を拠点に、それぞれの大学の有志が毎年合同で行っている。

学生は興味のある分野に分かれ、「海洋と川の関係」「川と人の暮らし」などについて調べた。

「植物と水生昆虫」班は、河原に生える植物を採取したり、食べてみたりした。梅本信也所長から、古座川流域に生えているツルヨシは1970年代前後までは見られなかったことや、上流にダムができてから小石のすき間に泥がたまるようになったことなどを聞いた。

京都大学2回生の北原奈緒さん（19）は「きれいな自然が見たくて参加した。似たような植物でも、調べてみるとたくさん種類があって興味深い」と話した。

河原に生える植物を調べる学生
（古座川町大川で）